



土木の世界は面白い！ 知って、見て、ふれて広がる興味

第三回メロディブリッジコンテスト&土木の教室

土木は市民工事

「土木」という言葉の語源は、ほとんど古く、古代中国の書物「淮南子」の中に「土木構木」とあるのを、明治時代に日本に取り入れたもの。文字をおり土木を造って「因づく」をするという力強いイメージの言葉です。

現代の土木は「ビル、マンション、アランダ（市民工学）」と呼ぶにふさわしい多様な範囲を見えています。人間の快適な暮らしをつくらうとするとき、社会資本整備はおおむねハード・ソフト両面における豊かな内容を求めます。しかし、一般には土木の世界は、相変わらず「土木イコール工事」と狭い範囲で考えられている人も多くいます。現代の豊かな土木の世界を知って欲しい。でもおもうと「土木の日」にちなんでイベントが、神戸で開かれました。

メロディを奏でる 楽しい橋

十一月六日の朝、JR神戸駅前の地下街にあるデパートでは、トンネルコンクリートに音を響かせる音が響きました。「第三回メロディブリッジコンテスト」(主催「土木の学校」共催「国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所」)に参加するチームのメンバーたちが、最後の仕上げに取りかかっているのです。メロディブリッジコンテストは、土木専攻の学生や若い技術者が参加するコンテストで、渡ると音の出る橋を自分たちで製作し、その構造やアイデアを競うものです。今年は神戸大学大学院と六チームがエントリーし、それぞれ工夫を凝らしたメロディブリッジを披露しました。会場は簡易に囲まれた露店型で、人の行き来が盛んで、買物客たちが興味津々に近寄ってきます。若者たちの製作を感心して眺めています。

御影工業高校が 二年連続の栄冠

午後、各チームのプレゼンテーションが始まりました。材料は鋼、木、銅などさまざま、音の鳴る仕組みも「ななみ」と「ほれ」を上手に利用したものなど、苦心の跡が見られます。安全性、経済性をともなう工夫が感じられて完成させ

た橋は、どれもメロディブリッジといえ、実用化の可能性もある優れた作品です。ビームの優しい音色、竹のカタカタ音、塩ビ管の軽やかな響き、見学した子どもたちは大喜び、拍手を上げて橋を褒めています。県田舎産学生(神戸大学工学部教授)「土木の学校」理事(志)をはじめとする審査委員のみならず、チーフリレーの説明を聞きながら、それぞれの成果を確かめました。

プレゼンテーションが終了した後、審査員の意見と集まった一般の人々の投票によって、今年の結核が決められました。最終発表を獲得したのは神戸市立御影工業高校の「御影丸太橋」。昨年に続く連覇です。温かみと頑かささるコンクリートに、丸太のすり橋をイメージした橋は、歩くとき足に取っつけたポンプが押しきって「ドレミファソラシド」の音を奏でます。

「ただつるだけでなく、どう見せるか、人が歩くときどう感じるかを常に頭に置き、丁寧に木を切り、丁寧にミミで磨り込みました」という御影工業高校のメンバーの言葉は、土木事業に携わる人間の熱い心を代弁するものでした。



神戸大学「JICA/JAPAN」09年設計コンテストの音色

御影工業高校の作品

製作した橋は、自分たちで歩いて確かめる

トンネルコンクリート、たはしほ製作中

優秀賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所の橋

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

審査員賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

審査員賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所の橋

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

審査員賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

審査員賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所の橋

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

審査員賞を取った兵庫県立御影工業高校、橋梁研究所

審査員特別賞の和歌山県立御影工業高校の作品

参加者の声 Participant Interview

佳 聖さん、光志さん親子
神戸市



神戸市立御影工業高等学校のみなさん



「ただつるだけでなく、どう見せるか、人が歩くときどう感じるかを常に頭に置き、丁寧に木を切り、丁寧にミミで磨り込みました」という御影工業高校のメンバーの言葉は、土木事業に携わる人間の熱い心を代弁するものでした。